

フォーパ

～ 女性建築士の輪 ～

奈良県建築士会 女性委員会

2018 年 秋号

第 95 号



高知城

目 次

■ 第 28 回全国女性建築士連絡協議会(高知) 報告	庄田 尚代	P 1
□ C分科会「歴史的建造物と建物再生」	山本 規子	P 2
□ D分科会「会員拡大に向けた取組み」	本保 万貴子	P 2
□ E分科会「自治体連携とまちづくり」	安田 千鶴代	P 3
□ G分科会「高齢社会と住まい」	武市 啓子	P 3
□ H分科会「既存民家の活用」	藤山 久仁子	P 4
■ 旅のこぼれ話		P 4
■ 隈さんの作品に会ってきました。	本保 万貴子	P 5
■ 私の好きな寺のこと等	江木 博子	P 6
■ 新会員紹介	西本 翠	P 7
■ 編集者が選ぶフォトジェニックスポット		P 8
■ 今後の事業予定		P 8

第28回全国女性建築士連絡協議会(高知)報告 庄田 尚代

異常な動きの逆走台風12号が西日本に上陸した7月28日(土)、29日(日)の二日間に開催された第28回全国女性建築士連絡協議会(高知)『「未来へつなぐ居住環境



づくり」～一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端 ～』の報告をさせていただきます。奈良からの参加は6名です。

28日

12:00～13:45 全国女性委員長(部会長)会議

於：高知県立県民文化ホール多目的室

【協議内容】

- ・第28回全国女性建築士連絡協議会アピール案について
- ・第61回建築士会全国大会「さいたま大会」女性委員会セッション
- ・第29回、第30回全国女性建築士連絡協議会
- ・「魅力ある和の空間ガイドブック(WEB版)」
- ・各都道府県の女性委員会の活動報告

14:00～17:30

於：高知県立県民文化ホールグリーンホール

【開会式】三井所連合会会長、高知県建築士会会長ら来賓の挨拶

【被災地の現状報告】

- ・宮城県建築士会「東日本大震災復興事業としての防潮堤について思うこと」
- ・福島県建築士会「ふくしまの現状」
- ・熊本県建築士会「被災地から 今だから伝えたいこと」
- ・大阪府建築士会「大阪府北部地震での建築士会の対応について」

以上4府県からの報告がありました。被災された皆様にご心からのお見舞いを申し上げます。このような被害の状況や復興状況報告によって、皆が防災活動と復興支援のあり方について考えることが大事だと感じました。

【基調講演】「未来へつなぐ居住環境づくり」

～一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端～

講師：山本 長水(山本長水建築設計事務所主宰 建築家)

土佐漆喰や和紙などを用いた土佐の伝統木造建築につ



いてたくさんの作品をご紹介いただきました。地元産材や土佐漆喰の伝統4色についての大変興味深いお話でした。

18:30～20:30 大交流会 於：三翠園

土佐の郷土料理の皿鉢料理、土佐の鰯、土佐のお酒と青年委員会の方々のパフォーマンスで大いに盛り上がりました。土佐の方々とはとにかくもてなし上手です。全国のブロックの代表による1×1(ワン・バイ・ワン)の活動報



告がありました。今回、近畿は兵庫と奈良が担当で「春の吉野見学会」などについて報告させていただきました。

29日

9:00～11:00 分科会

於：高知県立県民文化ホール多目的室と高知会館

A分科会：「防災への取り組み」高知県建築士会

B分科会：「建築女子がきずく未来」大阪府建築士会

C分科会：「歴史的建造物と建物再生」大阪府建築士会

D分科会：「会員拡大に向けた取り組み」鹿児島県建築士会

E分科会：「自治体連携とまちづくり」山口県建築士会

F分科会：「「地産材」活用の取り組み」秋田県建築士会

G分科会：「高齢社会と住まい」愛知建築士会

H分科会：「既存民家の活用」徳島県建築士会

8つのテーマに分かれて議論されました。

11:20～12:10 全体会

於：高知県立県民文化ホールグリーンホール

分科会報告、全体講評、第28回全建女アピール、さいたま大会への参加の案内があり、途中台風の動向が心配されましたが、無事閉会となりました。

C分科会「歴史的建造物と建物再生」

山本 規子

C分科会では、大阪の曾我部さんがコメンテーターとなり、大阪市の南端にある住吉区に残る蔵について調査する「住吉蔵部：すみよしくらぶ」の活動が発表されました。



その特徴的な外観から、ひとめで見て判る「蔵」は、景観や町並みにかかせない象徴的な建物ですが、歴史的建造物に暮らす人にとって、維持管理を考えるにあたって、おそらく最も後回しにされるものでしょう。その「蔵」に焦点をしばって、無理に保存されるのではなく、本来的な機能の維持・保全、あるいは新しい用途への再生が取り上げられていました。2012年に調査を開始してから、単に数や分布の状態で終わるのではなく、その後の変化を見続けた、この地に住む人たちの生活や考え方にまで踏み込んだ内容は、非常に興味深いものでした。

調査は、「蔵」づくりに欠かせない職人さんの方にも広げられていました。「蔵」が新たに作られることが少ないことから、土壁や漆喰壁、本葺きの瓦屋根などの建築材料と、それを扱える職人技術の継承は、年々難しくなっていくことでしょう。せめて維持・保全のための技術は是非とも残していただきたいものです。

全くの偶然ですが、住吉は私が10歳まで暮らしていた町で、分布図に載っている地名は、毎日通った遊び場であり、買い物に出かけた市場や、七五三の時の神社でした。訪れることがなくなって30年以上ですが、これを機会にどのように変わっているか、又は変わっていないか、見に行かなくてはと決心した次第です。

D分科会「会員拡大に向けた取り組み」

本保 万貴子



「建築士会会員の減少」や「活動会員の固定化」は、全国の士会、女性委員会の共通の課題です。第28回全建女(高知)2日目D分科会は、その課題に向けた活動の報告と意見交換でした。

コメンテーターは、鹿児島県の本房美保さん。鹿児島県の建築業界で働く女性100名を募って『「けんちくおごじょ大集合!」～豊かな暮らしの実現に向けて～』を平成28年に



D分科会参加者集合

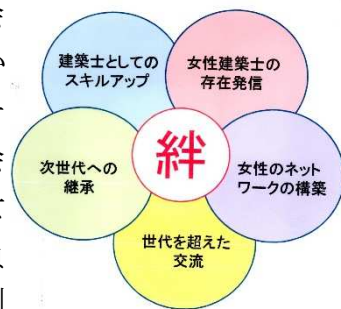
開催するに至った経緯とその後の活動が報告されました。始まりは平成28年6月。鹿児島県女性部会若年層の組織離れと活動参加者の少数固定を解決するた

めに「おごじょ大革命」を開始。現状の調査と会員へのヒアリングを行い、様々な意見をもとに女性部会の今後の活動を決定。5つのテーマに沿った研修会を掲げました。第1回は12月、建築の世界で働く女性のための大研修会

「あなたにとっての豊かな暮らしとは？」をテーマに、建築関係業界の会社・事務所の事務員等女性に声がけし、開催。会員外が7割、40歳代が8割

を占めました。「いろんな世代と知り合った」、「子どもと参加できて良かった」など大反響。翌年は、県のセミナーなども利用して女性としての感性を磨くために、歩・色・街・知・技をテーマに、その世界のプロを講師にしたおごじょミニセミナーを5回開催。女性の会員、準会員が増加したとのこと。この活動で、改めて女性部会(委員会)として活動する意義が見えてきたそうです。

奈良でも大いに参考にできる活動報告でした。



E分科会「自治体連携とまちづくり」

安田 千鶴代

町並みや景観を豊かなものにするために全国的に様々な取り組みがなされています。今回E分科会では、山口県周南市の建築士有志により平成29年6月に発足した、街づくりグループ“まち塾景観デザインチーム”の取り組みについて発表が有りました。

まち塾は平成19年、徳山駅周辺デザイン会議をきっかけに、まちづくりに興味がある建築士(15人)が集って出来ました。平成20年、デザイン会議の副委員長であった内藤廣氏に「まちづくり塾」を御願いした事から勉強会が始まり、今に至っています。

平成23年に周南市景観計画が策定されたことで、現状を知るための「街の測色」を始めたことが景観デザイン活動の始まり。まち塾では平成28年度「まちづくりに係る建築士会等と自治体との連携強化のための方策検討事業」の助成金を受けて、周南市の中心市街地の景観にふさわしい色彩やデザインへの指針をわかりやすくまとめたパンフレット「まちの景観作法書」を作成。周南市に贈呈し、都市政策課景観担当の窓口で事前相談や景観届を提出に来た設計者や業者、建築主に渡され、景観への理解と協力を得るためのツールのひとつとして利用されています。又、測色の成果物、中心市街地の通り(6通り)の測色データ小冊子「まちのいろ」及び測色の方法やまとめ方を示した「測色手順書」も一緒に贈呈しました。この他にも景観ワークショップを市と共催し、歩車共存社会実験のための空間デザインの受託など、建築士会の立場で行政と共に街づくりに関わっています。



G分科会「高齢社会と住まい」

武市 啓子

G分科会のテーマは、「高齢社会と住まい」。コメンテーターの竹中美智子氏(愛知県建築士会)より発表がありました。平成12年に介護保険制度がスタートして18年が経過。近年、より地域で高齢者を支えあう「地域包括ケアシステム」を推進し、自立支援・介護予防の充実などに重点を置いて法改正が行われています。「地域包括ケアシステム」の中心となることを「住まい」であるとして、在宅生活の継続を支援するチームづくりが推奨されています。「住まい」は、介護保険などのソフト面だけでなく、住宅というハード面が重要です。

続いて、昨年度より、愛知県建築士会で発足した「福祉のすまい特別委員会」の取り組みについての発表がありました。

その後、グループに分かれてワークショップを行いました。実際に「地域包括ケアシステム」に参加した方からは、「安全、安心、安楽な(家族ともうまく楽しく生活できること)生活は、建築士が手助けできること」、また「退院前カンファレンスと家屋調査など自宅に戻って生活できるように建築士の関与が必要ではないか」などの意見も出ました。



また、コメンテーターによると、在宅で生活する高齢者が増加する中、「住まい」「住環境」の整備は必要不可欠であるとのこと。QOL(生活の質)の向上に大きな意味を持つコミュニティーアーキテクトとして、建築士の存在は大きく、建築士が積極的に「地域包括ケアシステム」に参加していくことが求められているとのことでした。

私は「地域包括ケアシステム」には今まで参加したことがなく、もっと介護保険の事を勉強しなければと思いました。

私の参加した H分科会は「既存民家の活用」と、題しての分科会です。

高齢化率が 50%を超え、子どもの数は総人口の約 5.4%、空き家は 600 軒を超す徳島県の山間の町、神山町。少子高齢化による人口減少が加速する町における 2015 年からの地方創生の取り組みについて、この町で生まれ育ったという徳島県建築士会の赤尾苑香さんから説明がありました。

今、私たちが抱える大きな社会問題である老朽化した空き家の再利用をイメージして参加をしたのですが、どちらかと言うと、メディアでその自然環境が取り上げられ、移住転入希望の問い合わせが増える中での取り組みを中心とした報告でした。

① 「まちを将来世代につなぐプロジェクト」として、空き家となった民家を改修、整備し、希望者たちにこの土地で暮らす準備を始めるための「すみはじめ住宅」として提供する。

② 今、町にいる次世代を担う技術者たちの工務環境づくりを試みる「民家改修プロジェクト」として、町内出身の大工さんを中心に、行政や建築士、製材、設備、家具など色々なジャンルの人たちが協力し、また、インターンシップ制度も組み込んだ技術の継承と次世代の育成に民家改修を利用する。という 2 点が主な内容です。加えて、昔からその土地に住む高齢者にとって、移住してくる若者たちとの交流は中々難しいものですが、新しくできた店舗の紹介ツアーや住民たちとの交流会を企画し、パンフレットを配布する事などにより、その意識の壁をなくす努力もしているとの事でした。

まずは、**地域づくり・ひとづくり**なのでは……。私たちの住む土地においても増えつつある既存空き家、特定空き家。その判定や改修・再利用についての話し合いは各地で行われていますが、法整備・計画手段・建築士の立場・相続・税務等、問題は山積です。

従来からの日本家屋の良さを生かした改修・再利用、建物本体の老朽化、理想と現実……。あなたはどうか考えますか？

7 月 28 日（土）、29 日（日）に開催された第 28 回全国女性建築士連絡協議会に参加するために向かった高知で思わぬ光景に出くわしました。

前日の 27 日（金）に高知に到着。夕方、懇親会に出席するため、再び高知駅前広場に立寄ると、あれっ？先程見たはずの坂本龍馬がいない！？



折しも台風 12 号が西日本に接近中。高知県建築士会の方の話によると、「坂本龍馬、武市半平太、中岡慎太郎の三志士は、一時帰宅中」とのことでした。

三志士像は、発泡スチロールやウレタン製で、高さ約 5.3 m、重さは約 400kg とのこと。このように台風が接近する度に避難しているとのことでした。



勤務中の三志士像
(左から) 武市半平太、坂本龍馬、中岡慎太郎

隈さんの作品に会ってきました。

本保 万貴子



台風 12 号が、高知に集まる怖いおばちゃん達を避けて前代未聞の逆走をしていた頃、全建女(高知)に参加していた脳天気な女性委員 5 名は、

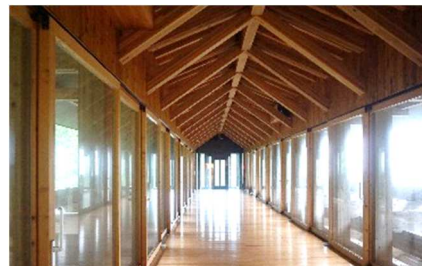
全建女終了後、大雨のために日曜市が午前で店じまいしたため、ひろめ市場で鰹の造りとたたきと、私達より若いちょっと酔ったおっさんに奢ってもらった魚で昼食をとり、龍馬等 3 人の銅像が自宅(?)に避難してしまった駅前まで借りたレンタカーで高知県梼原(ゆすはら)町に向かったのです。

雨が降ったりやんだりの空いた道路に車を走らせること 2 時間、突然、「雲の上のホテル」が現れました。そう、私達は、隈研吾さん設計の建築を見るためにやって来たのでした。

梼原町は、高知県西部、愛媛県との県境、四国カルスト高原にある自然豊かな山間の、人口 3500 人余りの小さな町ですが、環境モデル都市として豊かな森・水・風・光を活用したエネルギー自給率 100% 超を目指したまちづくりを進めています。町産材の杉・桧や県産材の桧をふんだんに使った隈さんの一連の作品、雲の上のホテル・温泉・プール、雲の上のギャラリー、マルシェ・ユスハラ、梼原町総合庁舎、雲の上の図書館は、国立競技場へと繋がる木質表現の原点かもしれません。

雲の上のホテルは、飛行機の翼をイメージしたデザイナーズホテル。ガラスに囲まれた入り口を入ると明るいレストランがあり、早速、私達は噂に名高い手作りチーズケーキのお土産をゲット。

一旦外へ出て、雲の上のギャラリーへ。ホテルからは渡り廊下とギャラリーを通して雲の上の温泉とプールに繋がっていますが、宿泊客以外でも外部階段からギャラリーに出入り自由。梼原町の各施設がパネル展示されていたギャラリー棟から続くブリッジ棟は、木橋ミュージアムとも呼ばれ、高さ 13.8m、約 200 m²の木造一部 S 造で、日本建築の軒に使われる斗拱(ときょう)のように刎木(はねぎ)を何本も重ね持ち出した「やじろべえ型刎橋」といった架構形式です。ブリッジの通路突き当たりの E V で 1 階プー



ルと温泉に移動します。

マルシェ・ユスハラは、雲の上のホテルの別館ですが、1 階には、「まちの駅ゆすはら」があり、梼原町の工芸品や農産物が販売されています。



梼原町総合庁舎は、町役場の老朽化により防災拠点と町産材活用のために新築されました。屋根一体型太陽光発電は 80kwh の規模で、省エネ対策や中間換気システムなどにより、環境評価基準 CASBEE で S ランクに格付けされています。木造一部 S 造、延面積 2970 m²、地下 1 階地上 2 階建です。



最後に雲の上の図書館を訪れました。文化と交流と生涯学習の拠点施設です。延面積 1938 m²、S 造一部木造で地下 1 階地上 2 階建て。内部には、生涯学習課や子育て相談室など、隣接する複合福祉施設との連携の場と、大空間のアトリウムに 14 のコーナー、「いろは」48 の本棚が並んでいて、ボルダリングコーナーもあります。何と言っても 2 階天井から一面に下がる木組みが圧巻で、木の香りに包まれた森の中にいるようです。一日中気分良く過ごせるこんな心地よい空間が近所に欲しいものです。

私の好きな〇〇というお題を頂きましたが、フープという場にふさわしいテーマがなかなか見つけれませんでしたので、寺のこと等ということでザックリ書かせて頂きます。

初めに、修復・復元される寺々について。

私が、奈良に転入して 30 年が過ぎました。最近しみじみ思うのですが、奈良に来るまで、古寺のことを勘違いしていたみたいです。古びた、黒いすすけたモノトーンの寺社仏閣がありたく、日本的で価値があるのだと思っていました。浅学故、どんなに学習していても、寺と神社の区別もなく単に様式の違いぐらいの薄っぺらな感覚しかありませんでした。

しかし、続々復元、修復されていく寺社を見たとき、とんでもない勘違いをしていたのだと、うちのめされました。それは、薬師寺の金堂、西塔が最初でした。遊びにきた友人がそれを見て、何だか古びた東塔のほうがお寺にふさわしい・・・西塔は浮いている?!と言ったのです。当時は、まだ修復、復元した伽藍は限られていたので、確かに古びた、年数を感じさせる東塔などとならべてみると、違和感がありました。極彩色ともいえる、丹色の赤、緑、漆喰の白、金色を基調に、紫、青、黄、で飾られた薬師寺の西塔がまぶしく見えました。しかし、その後、薬師寺内の伽藍が次々復元、修復されていくと、そこは、鮮やかな



「薬師寺」HPより 薬師寺西塔

東南アジアを思わせる、カラフルで華やかな空間になっていきました。そう、創建当時は、こんなにも鮮やかだったのですよね！色や灯りの少ない時代に、まばゆいほどカラフルな伽藍と金の仏像は、どんなに人びとに感動をあたえたでしょう！

日本はアジアの端っこの国なんだと、つくづく実感し、何とも

言えないポジティブな感覚にとらわれました。私は、創建時の色鮮やかな伽藍が好きなのだと自覚しました。

それにしても、当時の伽藍はどれも似通った色使いです。色には意味があるし、また、当時は染料というか顔料が限られ、色の種類も限られていたためでしょう。

年月を経て、モノトーンになっている伽藍と、端正な書院造りや数寄屋建築を一緒にするにはいけないということが、西ノ京に住むことによって肌感覚で理解できました。これで、東塔の解体修理が終わるとどうなるのかと今から楽しみです。

次に、薬師寺の近くの、唐招提寺御影堂の東山魁夷の障壁画について。

東山魁夷の画だというから、いつものふんわりというか独特の青い画なんだろうと漫然と思っていたら、全く違って、ものすごい衝撃をうけてしまいました。その前に立つと、波の打ち寄せる音が聞こえ、はるか底知れない海原に面して自分が立っている・・・まるで画の中の浜辺にワープしているような感じがしました。鳥肌が立つというのは、このことか！と初めて美術品に対して感じました。鑑真和上が、どんなに苦勞して強い意志をもって海をわたってきたのかを感じさせる画です。



「国立新美術館 生誕 110 年東山魁夷展」HPより 唐招提寺御影堂 障壁画

御影堂の公開は、6 月上旬に毎年おこなわれているので、皆さんも一度行かれてみたらどうでしょうか。ネットや画集で見るのとは全く違う経験ができるはずです。

最後に、私の好きな犬走の写真で終わります。カラーで見ないと、わかりにくいかもしれませんが、建物の足元にはベビーサンローズが植えてあります。小路をはさんでシュウメイギクが咲いています。

駄文、最後までお付き合いくださいましてありがとうございます。



新会員紹介

西本建築事務所 西本 翠



はじめに

事務所の移転を機に今年度から入会させて頂きました、西本建築事務所の西本翠と申します。

独立してからの5年間は古民家の現地再生を中心に、図書館・学校・店舗などの設計や、文化財建物などの実測調査を行ってまいりました。

古民家再生への想い

特に古民家再生においては設計者としての想いがあり、それは「次世代に繋ぐ」ということです。

そのためには、その時・その家に住む人の暮らしやすさがとても重要だと考えます。いかにその古民家に思い入れや歴史的価値があったとしても、古いままで暮らしづらかったとしたら古民家が残っていくことは難しいでしょう。古民家は住み繋ぐ人がいて、手入れさえ行えば、とても寿命が長い建物です。

住む人が快適に暮らせるように、今ある技術と予算の中でその生活に応じた再生工事を行い、古民家を生きた建築として次世代に繋ぐ。そしてまたその次世代に住む人によって、古民家が未来の技術でより良い形で繋がれていくことを期待しています。

設計への想い

建築は、敷地の条件や施主様が求める要望など、建物によって異なります。設計は、そこに適した答えを今ある技術と予算の中で見つけていくことだと考えています。特に古民家のように、年月がたっても変わらない良さを持った建物を設計できればと思います。

むすび

奈良へ越して来てから早7ヶ月、やっと生活にも慣れてきました。こちらには見るべきものが建物に限らず沢山あるので、そこから少しずつ学んでいきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



kka 古民家現地再生 外観（東京・登録有形文化財）



kka 古民家現地再生 内観（東京・登録有形文化財）



hdm 古民家現地再生 外観（埼玉）

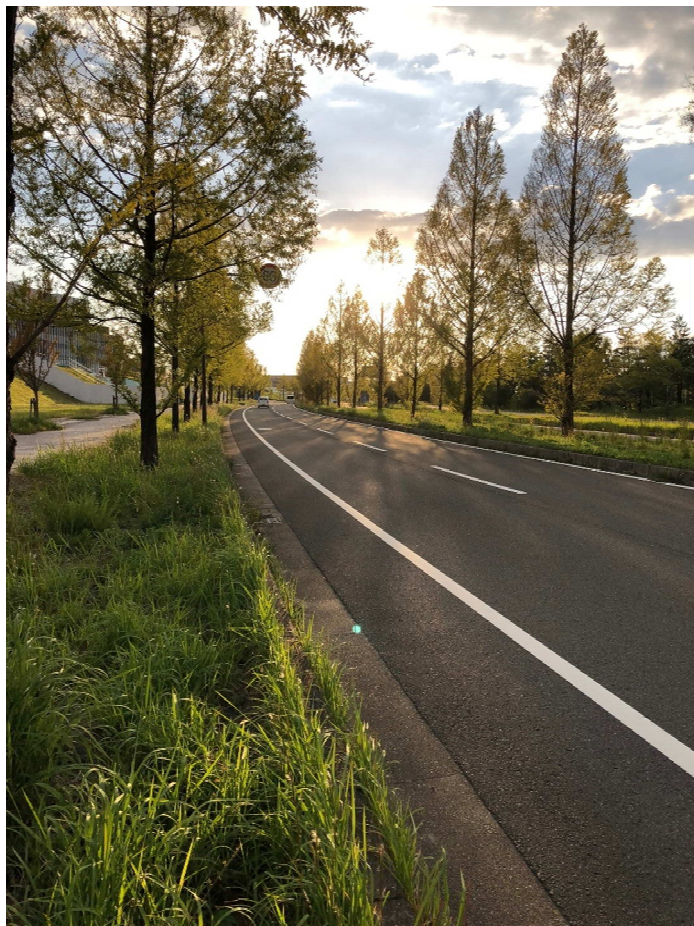


tdi 古民家現地再生 内観（千葉）



編集者が選ぶ！

フォトジェニック◆スポット



京都府相楽郡精華町

1.5 kmにも渡るメタセコイヤの並木。

メタセコイヤに夕日が重なる時刻が最高です。

■撮影場所 案内図



今後の事業予定

2018 年

11 月

1 日 (木) 奈良県景観デザイン賞 2018
作品募集 (予定)

17 日 (土) 第 37 回近畿建築祭 滋賀大会

12 月

6 日 (木) 平成 30 年度第三期建築士定期講習

8 日 (土) 中村好文独演会

19 日 (水) 監理技術者講習

2019 年

1 月

18 日 (金) 新年大交歓会

23 日 (水) 奈良県被災建築物応急危険度判定士
養成講習会

編集後記

前号よりフープの編集担当になりました野村と申します。同じく新任の瓶割さんと共に試行錯誤しながら進めております。至らない点多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先日、東京医科大学が入試で女子に不利な得点操作をし、女子の合格者数を抑えていたことが判明しました。これを発端に、同様の不正が複数の医学部で行われていることが明らかになりつつあります。医学部受験は、ある意味、医師の就職試験であり、昼夜関わらない長時間労働、重労働に女性は適さないと判断された上でのことだそうです。いわば、必要悪だということです。これに対し、女性が働きやすいような環境整備をせずに女性を遠ざけるのはおかしい、との声が業界の内外問わず上がっているようです。

医療業界ほどではないにしても、私たちが属する建築業界も女性にとって働きやすい環境とは言えないように思います。男所帯の中に居候しているような居心地の悪さを経験した女性は多いのではないのでしょうか。

そんな業界において、女性委員会の役割は、女性建築士を元気づけ、その魅力を引き出すことではないのでしょうか。私は女性委員会の活動などを通じて、何人かの素敵な女性建築士の方にお会いし、刺激を受けました。また、フープの記事によって感心させられたり、勇気づけられたり……。

近年、建築に興味を持ち、建築を学ぶ女性の割合は増えているそうです。希望を持って建築業界にやってきた女性が失望することなく、また誇りを持って働き続けられるような環境を作りたいものです。フープの編集を通して、その一端を担えたら幸いです。

(野村 亜希子)